

梅窓院通信

No.30 2007/01/01

新年号

青山

AOYAMA

みんなのお地藏さま

大地の力で私たちを守ってくれるのがお地藏さま。
梅窓院の参道にもお地藏さまがいっぱい、
竹林からじっと私たちを見守ってくれています。



住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



新年明けましておめでとうございます。
みなさんお変わりなくお正月を迎えられた
こととお慶び申し上げます。

さて、本年平成十九年は先代住職の十七
回忌にあたります。そして早いもので、私
も梅窓院住職になって十五年目を迎えます。

この間の本堂復興事業をはじめ、京都の本
山での唱讃導師、そして新本堂での各種行
事など、皆様のお力添えあってこそであり、
ここに改めて感謝させていただく次第です。

さて、昨年の文化講演会ではテレビでも
おなじみの筑紫哲也さんにご講演いただき
ました。一昨年在浄土宗の水谷幸生宗務総
長でしたので、少しやわらかめの方に講演
いただきましたが、多くの方のご参加をい
ただき、ありがとうございました。

また、数年前に復活しました十夜法要も、
法要後に法話やミニコンサート、そして芋
煮会と、いろいろ趣向を凝らしています。
いつもはお寺に足を運びにくいお若い方や
お子さんにも楽しめる行事になっていま
すので、どうぞご家族連れでお越し下さい。
ちなみに昨年は坂本九さんの娘さんで、シ
ンガーソングライターの大島花子さんをゲ
ストにお迎えしました。

なお、最終面に詳細を記してありますが、
近頃境内で不審者をみかけることが多く、
センサーライトを設置しました。お参りの
方を驚かせてしまいますが、どうぞご理解
ご協力をお願いします。

死

いのちはかなし
— 幸せは何処にある —

長野市十念寺 副住職

袖山 榮輝 上人

まだ携帯電話もない時代、十年以上も前になるだろうか。浄土宗大本山善光寺大本願恒例の別時念仏会を手伝っていた時のことだから、十一月も末。窓の外では雪がちらついていたと思う。

近在の寺の奥様から大本願までお電話をいただいた。住職の代わりにお通夜に行つてほしいとのこと。

じつはご住職が腰痛で入院加療のため、留守中の代理を約束していたのだ。

どんな仏さまか、奥様から事前に聞かせていただいた。しかし、実際、お通夜に伺い、ご遺体の前に通されると私は息を飲んだ。両の掌に収まるほどの、それはそれは可愛らしい赤ちゃんが小さな布団の上で静かに眠っているのだ。

透きとおるような綺麗な顔。誰もが微笑みたくなるようなあどけない姿。この子が死んでいるなんて、とても信じられなかったのである。

女の子であった。七ヶ月の早産。

三日前、流産の危機を帝王切開で乗り越え元気な産声をあげたという。「大変だったけれど、これから少しずつ大きくなるうね」と母も父も、初孫を授かった祖父母たちはみな安堵と希望に包まれた。

しかし、現実のなんとやるせないことか。彼女とこの世を結ぶいのちの綱は三日を限りに尽き果てた。

お釈迦さまの教えに、
「この世における人の命はいつどうなるか、前触れもないし、先のことなど分からない。艱難辛苦もあれば、短かつたりもする。苦しみに縛られているのだ」

とのお言葉がある(『スッタニパータ』第五七四偈)。

「いのちはかなし」ということであろうが、死は私たちに「人はなぜこの世に生まれてくるのか」という命題をつきつける。

幸せになるため?
多くの人と出会い心を通わ

せ合うことこそが幸せという人もいるだろう。

ささやかながらもつと具体的な幸せを語る人もいるだろう。

しかし、この世の出来事に幸せを求めるとするならば、彼女が生きた時間はあまりに短い。

お釈迦さまは、

「誰であつても生じ滅するさまを見ぬまま百年生きるより、生じ滅するさまを見ながら一日生きるほうがより勝れている」

との教えを残された(『ダンマパダ』第三二偈)。

この世に生まれてきた以上は誰だつて長生きをしてみたい。それが生物としての本能だからである。その本能に従えば、少しでも長生きして幸せを求めることが善となる。

しかし、それでは三日のいのちで亡くなった彼女の立つ瀬がない。三日のいのちを不幸と決めつけるからである。寿命の長短を人の幸不幸にすり替えていいはずはなからう。

では彼女の幸せはいつどこにあるのだろうか。亡くなった者の幸せは何処にあるのか。少なくとも、この世ではない。

なぜこの世に生まれてきたのか。答えはないかもしれないが、そう問いかけること自体、自然と仏の世界、覚りの世界に目が向かつていくのではないだろうか。

(浄土宗総合研究所研究員)

祖師堂行事報告

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」

開催期間/8月1日(火)~9月12日(火)

案内人の声に導かれながら、グループで暗闇の中の牧場やバスターミナル、バー等を体験するワークショップ形式の展覧会。

「花炎」

開催期間/10月6日(金)~22日(日)

陶芸家辻清明・華道家假屋崎省吾氏による陶芸と花の展示会。

「危機に瀕した歴史遺産」

開催期間/11月17日(金)~26日(日)

世界中の危機に瀕した遺跡・歴史的建造物の写真の展示会。

第六回文化講演会

11月4日(土)

「プラグを抜く— 緩急自在のすすめ —」

講師 筑紫哲也氏



筑紫哲也氏



法要の様子

第39回念仏と法話の会

10月10日(火)

十一月の行事報告



▲ 行道の様子



◀ 本堂にて念仏

十夜法要 芋煮会

11月18日(土)



大島花子さんのライブの様子

梅窓院を囲む日々

建築家

◆こんにちは、本日は宜しくお願ひ致します。

実は さんはこれで『青山』に三度目の登場になるのです。最初が新本堂の設計段階で、二度目が新本堂完成後、そして今回の三度目のインタビューなのですが、今回は、新しく梅窓院の檀家になられた、ということでご登場いただいた次第です。

さん（以下、敬称略） そうですね、もう三度目なんですわね。

◆この九月に梅窓院に墓地をお求めになられたのですが、墓石は建てられたのですか？

いえ、まだです。

◆ さんは今注目の若手建築家のおひとりですが、その さんがどんなお墓を建てられるのか、かなり興味深いのですが……。

まだ、考えていないんです(笑)。ただ、檀家総代の さんの墓石はお手伝いしましたから、それを参考にこれから考えます。あまり仰々しくなく、背も高くないものを考えています。そして、いままでのお墓のイメージにとらわれないものを建てられればいいなと思っています。

◆そうですね、 さんのお墓も従来のお墓のイメージとは違うデザインチックで素敵なお墓ですから、ご本人となるともっと楽しみです。

もともとご出身が長崎の大村ですが、お父様のお墓は静岡と伺っていたかと思いますが……。

はい、静岡だと簡単にお墓参りというわけにはいきません。お参りしやすさでは、ここ青山に勝るところはないでしょう。それに父は東京育ちの東京好きで、なかでも青山は大好きでしたから。

◆ さんの会社は以前工事中に梅窓院の仮本堂にしていたバイキューブで、参道のすぐ向かいですから、職住接近ならぬ、職墓超接近ですね(笑)。

ええ、毎日、お墓参りに来ているようなものです(笑)。

◆お父様も息子さんの活躍を毎日見られて、お喜びになるでしょう。

さて、 さんにはやはり、梅窓院建築の話をお聞かないという訳にはいきません。早いもので竣工から三年目を迎えますが、改めて新梅窓院はいかがでしょうか。

いい仕事ができたと感じています。なにより自然流で設計できて、あたかも自分の家のように感じています。

◆職住墓接近ですね。

ロンドンの建築月刊誌『ウォールペーパー』の東京ガイドで紹介されたのですが、竹林参道は外国人にはかなり魅力的のようです。やはり緑の力というのは強いのです。参道はしっとりとした緑の空間に、そして玄関は緊張感のある枯山水の空間に。これがうまく組み合わせられたと思っています。

◆なるほど、おかげさまで参道は外苑前のシンボルになりつつあります。

そして今、建築ということでは、一般の家も含め、建物全般が商業施設化しています。わかりやすく言うと、ホテル化している、つまりゲスト、来客を意識した空間作りが流行っているのです。さらに言えばテーマパーク化していると言ってもよいと思います。

ですが、宗教施設は唯一とっていい非商業的空間です。つまり宗教施設は神や仏と向かい合う特別な空間です。かつての仏間、床の間のように家の中心であり、仏やご先祖様をお祀りする神聖な場所なのです。

◆梅窓院が初めての宗教施設の設計と聞いていましたが、その特殊性をもうつかまえていらっしゃるんですね。

当院設計後、お寺などの設計依頼はありましたか。

はい、福島への見えるお寺の設計を頼まれました。

◆ひとつの仕事が次につながるの、いい仕事の証ということなのですね。最後に今後の抱負をお聞かせ下さい。

仕事を始めた当初は色々設計したい、ものを作りたいという想いでしたが、今は作ったものが何を残すのだろう、ということを考えます。時代や社会の規定を超えるものを手がけてみたいと思っています。

◆ありがとうございました。今後のさらなるご活躍を期待しています。

〈プロフィール〉

1954年横浜生まれ。79年東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、90年に隈研吾建築都市設計事務所を設立。自然と技術と人間との新しい関係を切り開く建築を提案、現在、慶應義塾大学理工学部教授に。各種の賞を受賞する日本を代表する若手建築家の一人。著書に『負ける建築』ほか。



今年も良い年になりますように、
ご先祖様へ挨拶に行った後は、初詣に行ってみませんか。

初詣 お守り巡り



浅草駅

出口1または3を出て5分ほど歩けば雷門。仲見世通りを進むと本堂に。

金龍山 浅草寺 仏閣

浅草といえば雷門。この大提灯は幅3.3m高さ3.9m。今では雷門と呼ばれ浅草のシンボルですが、本当は風雷神門といいます。大晦日には約200万人の人出で、仲見世通りは大賑わいです。これぞお正月という雰囲気は浅草ならではの。

健康長寿蓮弁守



稲荷町駅

出口1を出て上野方面へ2分歩いた左手の赤い鳥居が目印。

肌守り

満願成就



下谷神社 神社

この辺りの町名を稲荷町と呼ぶのは、下谷神社が昔から「正一位下谷稲荷社」と称していたからだとか。本殿の天井に描かれている「龍」はなんと巨星横山大観の筆。下谷神社前の通りは通称「仏壇通り」と呼ばれるだけあって沢山の仏壇・仏具店や宮大工店が軒を並べています。

上野駅

7番出口から京成上野駅側に横断歩道を渡り、階段を上り上野公園内に入り、桜並木を歩くと左に鳥居が見える。徒歩6分。

縁結び御守

縁結び



花園稲荷神社 神社

赤い鳥居が連なっており、通り抜けて行くとまるでワープしているかのよう。すぐ隣が五條天神社。近くの見所に上野大仏があるが、寛永年間に造立されたものの火災や震災、戦争で現在ではお顔しか残っていないので、知らない人も多いのだとか！

お守りミニ知識 2

たくさんのお守りを持つと神様同士が喧嘩するというのは方便ですが、神仏を大事にする為に、目的にあった1つか2つの御守りを大事に身に付けるのが良いでしょう。

学業守

合格祈願



上野広小路駅

松坂屋出口を出て上野広小路交差点を松坂屋を背にして直進。天神下の交差点に案内板が有る。徒歩8分。

湯島天神 (通称) / 湯島天満宮 神社

言わずと知れた学問の神様。遠方からはるばるやって来る参拝客も多い。受験生のいるご家族は是非訪れたい神社。本殿を囲む形で摂社が並び、季節ごとの催しで境内を花々が飾る。菊祭りやかるた大会など、年間行事も盛りだくさん。(本当の最寄駅・湯島)

表参道駅

A1・A2出口より表参道沿いの素敵な
お店にウインドショッピングを楽しみ
ながら徒歩25分も苦になりません。

— 心身健全 —
心身健全綿守



赤坂見附駅

C出口を出て、目の前の青山通りを外
苑方面へ徒歩5分ほど歩くと、右手に
見えてくる赤い提灯を目印に。

— 安産 —
安産御守護



豊川稲荷 東京別院 **仏閣**

赤坂御所の隣に位置する豊川稲荷。土の多く残る境内には百体を超える狐様の他、七福神や子宝観音、身代地藏などが並ぶ。芸能人の参拝が多いことでも知られ、願いの叶ったお礼として奉納される赤と白の豊川千本織が大岡越前守廟奥にびっしり。

新橋駅

A8出口を出てすぐ左、SLを左に見て、
新橋駅ビルの中央向かい路地を右へ
入りすぐ。歩いて3分。

— 商売繁盛 —
商売繁盛



おもて



うら

からずもり
烏森神社 **神社**

新橋の繁華街のど真ん中にある烏森神社。サラリーマンインタビューのメッカ新橋SL広場からすぐで、夜はほろ酔いで手を合わせる人も少なくない。烏のイラストが描かれた愛嬌あるお守りが一押し。銀座にもほど近く、初詣あとに銀ブラもできる。

明治神宮 **神社**

境内に一歩足を踏み入れると東京ドーム約15コ分の敷地内は都心にいることを忘れるほど緑が豊かで閑静なたたずまい。ところが初詣では大晦日から三が日で三百万人という日本一の参拝者がお参りにくる。広い参道が人で埋め尽くされ、拜殿に辿り着くまで数十分かかるのか? (本当の最寄り駅・原宿)

外苑前駅

1b出口を出てすぐの竹林
参道をお入りください。

— 世界平和 —
泰平観音御念珠



拡大

長青山 寶樹寺 梅窓院 **仏閣**

みなさんの菩提寺の梅窓院です。新しい竹林の参道はいまや青山の新名所になりつつありますが、梅窓院では観音霊場にちなみオリジナルの腕念珠を受付で用意しております。ご先祖さまに新年の挨拶をされ、世界平和のご利益の念珠をしての沿線神社仏閣に初詣。いい一年になりますように。

東京メトロ銀座線



お守りミニ知識 1

お守りの起源は古く、原始時代にさかのぼります。大昔の人は石や貝、動物の骨や植物などをお守りとして身に付け危険や災難から心身を守ろうとしました。お守りに願いをたくす気持ちは今も昔も変わりませんね。

末広町駅

3番出口を出て緩やかな妻恋坂を
直進。徒歩7~8分。

神田明神(通称) / 神田神社 **神社**

東京から神田間の日本橋、丸の内など百八の町の総氏神。「勝守」は、家康公が関が原の合戦時に授かり勝利を得たお守りで勝負事の好きな方には心強い味方。お正月には餅や樽酒が振舞われ、30万人以上の初詣客で賑う。二年に一度の神田祭は江戸三大祭にも数えられ、神田っこの血が騒ぐ。ご本尊に関する資料館もあるので、興味のある方は是非。



勝守

— 縁起の御守(取引・勝負・入試) —

明治神宮

明治天皇(めいじてんのう)

昭憲皇太后(しょうけんこうたいごう)

明治神宮は明治天皇と昭憲皇太后が崩御し、そのご遺徳を永遠に伝えていきたいという国民の気運が高まり、大正九年に創建された。参道にある高さ12m、幅17m、太さ直径1.2mの大鳥居は台湾の標高3300mの山奥より樹齢1500年を超える巨木を日本に運びこんで昭和五十年に完成させたもの。木造の明神鳥居としては日本一である。また「宮」は「口」間に「ノ」が入らないのが正式な字体。



豊川稲荷 東京別院

豊川叱枳尼真天(ほうせんかくだきにしんでん)

愛知県豊川稲荷の直轄別院。正称は豊川閣茶枳尼真天堂といい、寒巖禪師伝来の豊川叱枳尼真天を祭祀する。8代将軍徳川吉宗に登用された大岡越前が妙巖寺(愛知県豊川市、豊川稲荷)に帰依し、赤坂一ツ木通り通りにあった江戸藩邸内に豊川稲荷社を祀って深く信仰したといわれる。お稲荷さんは通常、神様として神社に祭られているものだが、この豊川稲荷はお寺に祭られる仏様である。



由緒編
初詣
お守り
巡り

神社仏閣の
由緒を訪ねて

長青山 寶樹寺 梅窓院

阿弥陀仏(あみだぶつ)

梅窓院は、徳川家康公以来の譜代大名、老中青山大蔵少輔幸成公の菩提寺として青山家下屋敷内に建立されたのがはじまり。以後、青山家の菩提寺として歴代の当主、十三代の御霊をお祀りしている。御本尊の阿弥陀仏は聖徳太子の御作と伝えられ、山の手六阿弥陀の一つとして信奉されている。また、観音堂に安置されている泰平観世音菩薩は三国伝来と伝えられ、霊験あらたかなる観音様と近隣の信仰を集め、江戸三十三観音の第二十四番札所とされている。



からすもり

烏森神社

倉稲魂命(うがのみたまのみこと)

天鈿女命(あめのうづめのみこと)

瓊々杵尊(ににぎのみこと)

平安時代、平将門の叛乱の征伐に向かった藤原秀郷が戦勝祈願したとも、勧請したともいわれている。また室町時代の足利成氏の戦勝祈願状はいまも残る神社の宝。江戸時代には稲荷信仰の二月初午稲荷祭は大いに賑わい、江戸一、二人出があった。明治時代以降に始められた五月祭りが現代の夏祭りのはしりともいわれている。昭和四十年代に場所柄もありコンクリートの社殿となった。



神田明神

大己貴命(おおなむちのみこと)

少彦名命(すくなひこなのみこと)

平将門命(たいらのまさかどのみこと)

天平二年、大己貴命の後裔により創建されたとされ、時代を追ってたいこく様、えびす様がそれぞれ鎮座した。東日本に多い将門伝説の中でも、こちらは将門を祀ることで、御首を祀る将門塚とは違いを隔す。墳墓の周辺で天変地異が頻発し人々を恐れさせた為、真教上人が御霊を慰めその後奉祀された。江戸に鎮座して以降約1300年、江戸の全てを守護している。



湯島天神

天之手力雄命(あめのたぢからをのみこと)

菅原道真公(すがわらのみちざねこう)

雄略天皇の勅命により御宇二年に創建、天之手力雄命を奉斎したのが始まりとされ、その後、郷民の菅公への慕情がきっかけとなり、文道の大祖と崇め奉祀するに至る。以降、学者、文人の参拝も絶えることなく続き、林道春、松永尺五、新井白石などの名も見える。徳川綱吉が湯島聖堂を移すにあたり、この地を文教の中心とした。元禄十六年に全焼するも綱吉公の寄進によって再建し、平成七年には総檜造りで造営された。



花園稲荷神社

倉稲魂命(うがのみたまのみこと)

豊受姫命(とようけひめのみこと)

倉稲魂命は須佐之男命の御子・伊勢の外宮の大神で、幸魂は屋船神と申し家屋の守り神。衣食住を守る大恩神。承応年間、天海大僧正の弟子晃海僧正が悪夢に感じ、廃絶した社を再建し上野の山の守護の神とした。当時は忍岡稲荷(俗称穴稲荷)と云われていた。幕末、彰義隊の最後の激戦地として知られている。明治に岩堀数馬、伊藤伊兵衛の篤志によって再興され花園稲荷神社と改名。



したや

下谷神社

大年神(おおとしのかみ)

奈良時代、峡田の稲置らが大年神・日本武尊を上野忍ヶ岡に奉祀し、平安時代に、藤原秀郷が平将門追討の報賽として社殿を造営した。江戸時代には寛永寺の造営で社地上野山下に移され、その後大震災等で場所を転々としたが、昭和三年の土地区画整理で現在地に。戦火を受けず荘厳を保っている。また下谷神社は初めて寄席が行われたことから「寄席発祥の地」としても有名。

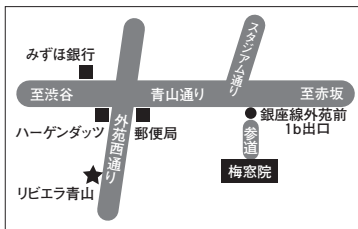


金龍山 浅草寺

聖観世音菩薩(せいこんぜおんぼさつ)

飛鳥時代、戸川(現在の隅田川)にて漁労中に感得した一体の観音像を郷司土師中知が自宅を寺とし、奉安したのが浅草寺の始まり。浅草の地は観音参拝の信徒が増すにつれて発展し、江戸時代には幕府の祈願所と定められ、江戸文化の中心地として栄えた。浅草寺は「浅草観音」の名称で全国的に多くの人に親しまれ、参拝者の絶えることなく、1400年近くにわたり変わらず民衆信仰の中心霊場である。





営業時間/月～金曜日
Lunch 11:30～15:00 (L.O.14:00)
Dinner 18:00～23:00 (L.O.21:00)
土日祝日はお休み
50名以上の貸切は2ヶ月前から予約OK
住所/東京都港区南青山3-3-3
リビエラ南青山ビル
TEL/03-5411-6660
HP/www.riviera-ra.jp



オープンキッチンからはシェフの華麗な料理姿が見える



人気の「新鮮なウニのクリームソースのスパゲッティ」

ランチ 1,200円～
ディナー 5,000円～
アラカルトもあり

レストランリビエラ青山
広々とした店内でくつろぎの時間を
窓が広く自然光が気持ちの良い店内。ここでは、イタリアンと和食のコースを味わうことが出来ます。
イタリアンは銀座「ラ・ベットラ」の落合シェフが監修。人気の「新鮮なウニのクリームソースのスパゲッティ」はウニのつぶつぶが残っていて、素材もしっかり味わえます。

和食は約五十年前前に創業された池袋の料亭「白雲閣」の会席料理の伝統を受け継いでいます。
こだわりの野菜で、契約農家で作った野菜しか使いません。しかも、レストランで出た残飯は肥料にして、土から作る。自然にも優しいお店ですね。平日、お墓参りの後、食事をしに立ち寄ってはいかがでしょうか。

葱は風邪の妙薬

食は命
なり
武鈴子
食養研究家

第二十五回

冬の暴れん坊－風邪。一言に風邪といっても、症状はいろいろ。くしゃみ、鼻水がちょっと出る程度のものから、高熱で意識もうろうとなる重症なものまでさまざまです。風邪は引き込んでしまったらなかなか治りません。「万病の元」といわれる所以です。手当てとしては、まず何をしても体を温めましょう。

寒い季節に体を温める代表選手といったら鍋ですね。そしてどんな鍋であろうと決して欠かせないのが「葱」です。いつもは主役の引き立て役ですが、鍋では主役といってもいいほど貴重な存在です。

昔から風邪には、「葱みそ」という民間療法がありました。葱と生姜を刻んでみそと一緒に臼に入れ、熱いお湯をそそいで飲むと、体が温まって風邪が治る「インスタント風邪薬」です。また、「生姜湯」という飲み物もありました。鍋に葛粉と水を入れて火にかけ、葛粉が溶けたら生姜のすりおろしと黒砂糖を加えて混ぜたものです。飲んでいくうちに体がぽかぽかと温まってきて、いつの間にか風邪が吹き飛んでいました。風邪を引くといつも母親が作ってくれましたが、この飲み物は甘くておいしく、体が温まってすぐにくしゃみも鼻水も止まってしまう、一晩寝ると翌日は元気で学校へ行ったものです。しかし、これは風邪のときでないと作ってもらえないので、子どものころはまた風邪をひきたいと思ったほどです。

葱や生姜は風邪の発熱、悪寒、腹痛を治す身近な妙薬です。昔からなじみがあり、手軽に使えて効能が高い葱を、朝は味噌汁、昼はうどん・そば・ラーメン、夜には鍋料理にとたっぷり食べて風邪を撃退しましょう。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○ 一筆の寒紅あはく傘寿かな

(評)寒紅をさうとひいた傘寿の人の、凜とした、そしてどこか気品のある姿が見えます。

◎佳作

○ 念仏の法灯継がれゆく小春

○ 落葉踏む音を山ゆく音となす

○ 冬の鴉朝の勤行果てにけり

○ 短日の庭を掃きつつ陽を惜しむ

○ 霜月に一枚残る銀杏の葉

○ 露天湯へいそぐ足元落葉舞ふ

○ 先づ湯気を鍋に立てたる絹豆腐

○ 低き日の蒲団の幅に回り来ぬ

○ カレンダー掛けて終はりし年用意

○ 待ち人の睫毛に光る六花かな

◎選者詠

○ やはらかく踏んで落葉松落葉かな

大崎 紀夫

(フンポイントアドバイス)

宮田さんより「駅伝はまだ季語になっていないのでしょうかとお問い合わせがありました。ただ、まだなっていません。歳時において「生活」「行事」の項に分類されている季語は、時代の移り変わりによつてその季節感を希薄にしたり悪くしたりしていく場合が多く、季語にするにはかなり慎重にならざるを得ないという事情があります。「箱根駅伝」あたりは正月の季語としていいたいようにも思いますが。

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月15日を締切、3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウエップ編集部
電話03-5368-1870

行事予定

第40回 念仏と法話の会

2月26日(月)

法話「法然上人に導かれてⅡ」

浄念寺住職 高橋清海上人

仏教講座

全講座 午後6時～8時

受講無料・観音堂

法然上人と二十五霊場について

新井俊定先生

天然寺住職／大正大学出版会主管

第2回 1月15日(月)

東大寺を中心に

第3回 3月8日(木)

京都と番外の霊場

中国仏教 三大石窟

阿川正貫先生

浄土寺住職／大正大学講師

第3回 2月13日(火)

その3 敦煌のお話

仏・菩薩 — その教えと信仰

勝崎裕彦先生

香蓮寺住職／大正大学教授

第3回 2月22日(木)

地藏菩薩とその信仰

第39回

念仏と法話の会精勤表彰者

第40回 念仏と法話の会
2月26日(月)

春彼岸会法要・寄席
3月21日(水)



はなまつり
4月6日(金)～8日(日)

団体参拝旅行
川越・孤峯山 蓮馨寺の旅
5月下旬予定

第41回 念仏と法話の会
6月12日(火)

郡上おどり in 青山
6月23日(土)
24日(日)



平成十九年

年間行事予定

盂蘭盆会法要
7月13日(金)

大施餓鬼会法要
7月21日(土)



秋彼岸会法要・寄席
9月23日(日)

文化講演会
10月中旬予定

十夜法要・芋煮会
11月24日(土)



※予定は変更になる事もございます。ご了承下さい。

防犯対策に関するお知らせ

最近、不審者侵入事件が相次いでいます。そこで梅窓院では、参拝される皆様の安全の為に、まずは侵入されない環境づくりが第一と考え、不審者を威嚇、確認するという目的で、センサーライトと防犯カメラを設置致しました。センサーライトとは人を検知すると強い光を放ち、侵入者に警告するものです。

夜間遅く参拝される方にセンサーライトが作動してしまい、大変驚かれることがあるかと思いますが、何卒ご了承くださいます。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

〔センサーライト・防犯カメラ設置場所〕

- ① 参道竹林
 - ② 受付付近
 - ③ 境内墓地入口付近
 - ④ 祖師堂玄関近辺
 - ⑤ 管理棟駐車場
- ※通夜やその他の行事を除き、通常は夜八時～朝六時の間のみ作動します。

編集後記

今回の表紙の写真は梅窓院の参道におられる六地藏さまです。参拝にこられる人をつもなんとも言えない笑顔で迎えてくださいます。六地藏さまが身に着けておられる頭巾と前掛けはお檀家さまの手作りなんです。いろいろな色の前掛けを作っては持って来てくださるので、六地藏さまはいつでも綺麗な前掛けに着替えることができます。

水玉の前掛けもとってもお似合いで思わず笑みがこぼれてしまいます。



発行／梅窓院
発行日／平成19年1月1日
発行人／中島真成
編集／青山文化村
住所／〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8588
FAX／03-3404-8446
ホームページ／<http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail／kouhoubu@baisouin.or.jp
題字／浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆猊下